



射水市名誉市民

こばやし よそじ
小林 與三次

Kobayashi Yosoji

生年月日～没年月日

大正2年7月23日 生
～ 平成11年12月30日 没

決定年月日

平成6年1月13日議決

主な経歴

自治事務次官
日本テレビ放送網社長
読売新聞社社長

功績

小林與三次は、射水郡大門町柳町(現射水市)に生まれた官僚・実業家です。

昭和11年、東京帝国大学(現東京大学)を卒業後、内務省に入庁。昭和33年には、自治省としての初代事務次官に就任し、38年に退官するまで約30年にわたり、地方行政の推進に尽力しました。

この間、地方公共団体の運営指針となる地方自治法の公布、地方公務員の研修機関である自治大学校の設置、自治基盤を強化するための小規模町村合併の推進など、数々の業績を残しました。

昭和40年には読売新聞社に主筆兼論説委員長として迎えられ、編集部門の最高責任者として正力松太郎社主を支え、読売新聞社の発展に尽くします。さらに昭和45年、日本テレビ放送網の社長に就任。当時、日本テレビは営業成績、視聴率とも振るわない中、優れた経営手腕を発揮して、短期間で経営の建て直しに成功します。

昭和56年、読売新聞社社長に就任してからは、紙面の高級化方針を打ち出すとともに、社外の専門家を集めたシンクタンクとして調査研究本部を新設、言論機関としての機能強化に力を注ぎました。61年にはコンピュータによる新聞製作システムを完成させ、同年10月に読売新聞は世界最多である発行部数900万部を達成することになります。

その他、日本新聞協会会長、日本民間放送連盟会長、元号に関する懇談会委員などの要職を歴任、国際的には、システィーナ礼拝堂の壁画「最後の審判」(*)修復などに代表される世界的な文化事業にも多大な貢献を行いました。

郷土に対しては、大門総合会館の緞帳をはじめ、各施設の整備、備品の充実に尽くすなど、ふるさとの発展に大きく貢献しました。

※ 壁画「最後の審判」 ルネサンス期の芸術家ミケランジェロの代表作。パチカン宮殿内に建てられたシスティーナ礼拝堂の祭壇に描かれている。1541年完成。

※ 関連施設 正力・小林記念館 正力松太郎と小林與三次の功績を後世に伝えるため、平成14年開館。入場無料。

(『大門町史 続巻』(大門町) から引用)